

本直香書状〔C〕

御高札拜閱仕候、愈御安清ニ被遊御座、大悦不斜奉存候、
小子も平安ニ罷過候間、乍憚御懸念被下間敷候、然者不三
替御玉調御送被下、忝且為ニ朱料金五拾疋御惠被下、每
度恐入候事共厚拜受仕候、外ニ本代三兩三分、是又慥ニ相達、
早速相求差上申候、着之砌御改御一覽可被下候、則、

日本記 壺両貳分貳朱

一覽 三分壺朱

部類 壺分

壺(二) 壺両貳分三朱

さし引壺朱過上に相成候間御返し申上候、此節国書類甚拈底
にて、一覽などは漸々ケ成本見付出し申候、万葉其外も御入
用之趣キ御座候得共、追々高価に相成、手も出しかね候様子ニ
御座候間、暫く御見合被遊候而者如何、其内見計ほとよきも
出候ハ、差送り可申候、諸色共惣而高価にて米壺合百文、
油壺合貳百文、酒壺合上酒二百文、湯錢三十貳文、髮結錢六十
四文、そばハ一杯四十文にて一箸計御座候、右ニ付行々如何
可相成哉と、市中一同案心不仕、何となく騒々敷事も相聞
え申候、乍併御地辺ハ御平安、先便当年月並題差上候間、何
卒皆様御勸御出詠被下候様願上候、昨年中御約束申上候通、
当八月ハ是悲茸狩に推参可仕与、今も楽ミ居申候、御一笑可
被下候、猶後便万緒可申上候、恐々謹言

二月四日

橋本彦八

村上伊右衛門様

机下

尚々、未余寒過かね候間、折角御自愛被下候様奉折上候、以